

第2回 あつぎ気候市民会議 会議録

■ 日時・場所

日時：2023年7月16日（日）13:00～17:00

場所：サイエンスホール 250（厚木シティプラザ6階）

■ 出席者

参加者：44名（欠席8名）（A～Iの9グループを編成）

専門家：渡部厚志氏（地球環境戦略研究機関）、新井聡史氏（神奈川県環境科学センター）、
前場 徹氏（厚木市まちづくり計画部）、山崎尚裕氏（厚木市環境政策課）（登壇順）

司会（全体ファシリテーター）：岩崎茜氏

■ プログラム

13:00	開会 前回のふりかえり・今回の内容説明	・前回のアンケート結果の共有 ・今回の内容とゴールの確認
	アイスブレイク	「じぶんごとプラネット」の感想共有
	地域脱炭素を考える補足説明 2050年のイメージ意識化	説明：渡部厚志氏
13:30	専門家レクチャー1 「神奈川県（厚木市周辺）における 地球温暖化の影響」	講師：新井聡史氏
	専門家レクチャー2 「厚木市の地域特性について ～コンパクト・プラス・ネットワーク に向けたまちづくり～」	講師：前場 徹氏
	専門家レクチャー3 「厚木市のCN施策 #カーボンニュートラルあつぎ みんなで取り組みましょう」	講師：山崎尚裕氏
14:15	（休憩）	
14:25	グループワーク1・質疑応答	ワーク：講師への質問作成
15:05	グループワーク2	ワーク：2050年のイメージを描く
15:50	（休憩）	
16:00	グループ発表	
16:20	今後の会議の進め方の提案 次回に向けての連絡・アンケート	
17:00	閉会	

■ 配布資料

【事前配布（配信）】

- ・あつぎ気候市民会議 第2回会議案内
- ・第1回会議講師への質問及び回答
- ・レクチャー資料1～3

【当日配布（補助資料）】

- ・神奈川県気候適応センターパンフレット（レクチャー1）
- ・厚木市カーボンニュートラルロードマップ（レクチャー3）
- ・厚木市地球温暖化対策実行計画（レクチャー3）
- ・厚木市地球温暖化対策実行計画第2章「地域特性」+住宅戸建集合比（レクチャー3）

■ 市民会議の概要

1. 開会 前回のふりかえりと今回の説明・アイスブレイク・補足説明

はじめに、前回のふりかえりとして、遠藤睦子事務局長から前回の参加者アンケートの結果の概要を紹介し、意見や感想などを共有したほか、市民会議の目的の再確認を行った。

続いてアイスブレイクでは、前回紹介された「じぶんごとプラネット」（注・個人のカーボンフットプリントを可視化できるサイト）に各自が取り組んだ感想をグループ内で話し合った。

その後、前回の講師でもある渡部厚志氏が、将来の暮らしやすいまち・2050年の脱炭素化した厚木を考えていくに当たっての補足説明を行った。

また、気候変動対策の必要性を取り上げた映像（NHK スペシャル「2030 未来への分岐点」暴走する温暖化“脱炭素”への挑戦）を視聴したほか、イラストや資料等を用いて2050年のイメージを意識化するプロセスを経て、本日の専門家レクチャー及びグループワークへと臨んだ。

2. 専門家レクチャー1「神奈川県（厚木市周辺）における地球温暖化の影響（新井聡史氏）」

神奈川県環境科学センターの新井聡史氏によるレクチャーでは、神奈川県の変化の概略や気候変動の影響（相模川流域における洪水の発生や水環境の変化等）の予測、気候変動に関するヒアリング調査結果（令和3年度）について解説が行われた。

3. 専門家レクチャー2「厚木市の地域特性について～コンパクト・プラス・ネットワークに向けたまちづくり～」（前場 徹氏）」

厚木市まちづくり計画部の前場 徹氏によるレクチャーでは、「厚木市コンパクト・プラス・ネットワーク推進計画」について、住まいや移動手段の質の向上を進めることで市民の生活利便性を高める都市づくりを目指し、特にバス路線に関して複数の事業が実施されていることが紹介された。

4. 専門家レクチャー3「厚木市のCN施策#カーボンニュートラルあつぎ みんなで取り組みましょう」（山崎尚裕氏）」

厚木市環境政策課の山崎尚裕氏によるレクチャーでは、「厚木市2050カーボンニュートラルロードマップ」と厚木市地球温暖化対策実行計画の概要について、特に電気を重視し再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進を二本柱としていることや、関連施策の説明が行われた。

5. グループワーク 1・質疑応答

グループワーク 1 では、3 つのレクチャーに対する感想や疑問をグループ内で共有し、グループとしての質問を集約した。なお、質疑応答の概要は別紙して公開する。

6. グループワーク 2・発表

グループワーク 2 では、「脱炭素化した 2050 年厚木市のイメージを描く」というテーマに沿って、脱炭素化が社会をより豊かにし、より快適で幸せに暮らせることにつながるというポジティブな視点で話し合いを行い、特徴的だった意見等を発表した。概要は以下のとおりである。（発表順）

グループ	概要
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフスタイルでは、「新サマータイム」を導入し昼夜逆転生活で電力使用量を減らしたり、少しの傷でも食品や製品が廃棄になってしまう現状を知り、それ（傷のあるもの）を許容したりするなど、常識・意識の転換・変革が必要 ・ 建物の屋上だけではなく、道路のガードレールに太陽光パネルを設置するなどして、至る所に発電システムがあり、再エネで電力を全て賄えるまちにする ・ 小規模の新交通システムや市電（路面電車）などを取り入れ、自動運転も用いてきめ細かな路線を張り巡らせ、なるべく車を使わない社会にする
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ インフラに関して、地下に「潜る」ことで暑さ・寒さの影響が減り、電気代が大きく削減できるので、地下にまちを作ってもよいのではないか ・ 天候や洪水被害に左右されないような灌漑やスマート農業ができるとよい。食品を改良してサブリなどで必要な栄養が取れるようになると、家事も楽になる ・ ごみの分別をロボットで自動的に行う（手間が減る・リサイクル率向上）
I	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ分別は徳島県上勝町のゼロ・ウェイストの事例を真似し、ごみの量や種類を住民自身が知っている。ID チェックでルール違反ができない仕組みになる。 ・ 涼しいミストシャワーが駅や街中にある。今すぐにでもほしい。 ・ 緑や水辺など、自然の中で子どもも大人も涼しく安全に遊べたり過ごせる環境が身近に多く、にぎわいがある ・ バス以外も学生・買い物客に使いやすい多様な移動手段が増えている ・ 教科書の電子化（荷物軽量化・ごみ削減）、テレワーク等を当たり前に選べる
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人が移動せずにサービスを受けられる環境が整う。医療や投薬を自宅で受ける、介護や食事作りをロボットが行うなどが考えられる。 ・ 電動キックボード等の新たな移動手段が発見される。海外では普及している。これを使うことで公共交通や車の使用の削減につながるという。安全に利用するために専用道路の整備も必要になる。 ・ AI 等ロボットによる自動化でいろいろなプロセスが効率化する。食糧生産やエネルギー確保などをロボットに解析させて、必要な量を把握し食料廃棄を削減したり、自動運転で効率のよいエネルギー消費に貢献できる。

F	<ul style="list-style-type: none"> ・活気ある厚木を 2050 年も維持していきたい。住まいやまちづくりはコンパクトにして、コミュニティが今より活性化することを目指す。 ・太陽光以外にも、人間活動や集中豪雨をエコエネルギーに変えるなど、新たな再生可能エネルギーを生み出す技術を使って脱炭素を実現したい ・食料危機の問題が心配だが、工場などで農産物の生産を増やす施策があるとよい。地産地消にもつながる。 ・個々の移動がもっと便利になるようなテクノロジーが発展するとよい。自動運転の電気自動車を使ったオンデマンドの乗り合いシステムならば、待ち時間も気にせず目的地に行くことができる。
G	<p>近未来の未来予想図として以下を段階的に進め、未来都市として完結させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用したエネルギー量に応じた課税制度とし、公平性の担保と脱炭素化を推進 ・スマート農業で食糧自給率向上と後継者問題の解決を図る ・都市の局地化（都市機能の拠点化・分散化）を行い、コンパクトな都市をつくる ・公共施設に太陽光発電設備を必置・歩道上屋や車道路盤に太陽光パネルを設置 ・都市内の移動手段はすべて利用目的に応じた小型電動モビリティを使用 ・空いた土地は緑地化してレジャー施設とし、エコツーリズムの発信地として PR
H	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルの需要拡大・普及による低価格化促進のため、厚木市で再エネ会社を設置してパネルを配る。ただし増税が必要であれば対策が必要となる。 ・マスクや白衣などの医療廃棄物削減のため、AI による手術を行う ・食べ残し削減のため、飲食店で量を明記したり、罰金システムを増やす ・「食品の生産を工場で行うことで効率化と農地開拓・運用による自然環境への負荷を減らす」という意見と、「昔ながらの農法への回帰を模索するのが望ましい」という相反する意見が出た
E	<ul style="list-style-type: none"> ・今の豊かな自然や生態系を守る（里地・里山・里川の発展、自給自足を意識） ・大量生産・大量消費や、農薬使用作物の購入といったライフスタイルを改める ・自然を破壊しない形で再エネ導入を進める。景観破壊や農産品への影響を防ぐため、壁に設置する太陽光パネルや、パネル設置で遮光されても育つ農作物の開発など、技術の発展で解決を目指す。 ・公共施設において太陽光パネル・風力設備を導入する。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・移動に関して、世界を繋げるエコな新幹線（横につながるチューブ）が挙げられた ・自治力が強いまち、本当の市民の声を理解した街並みを目指す ・子どもの教育では、基礎的な知識として環境を考えさせる科目が当たり前になる ・自治力を上げて、前例がないことにも積極的に取り組むまちづくりとして先進的なことができるとよい。（例：新電力の開発、CO₂ 吸収効果が大い・プラスチックを溶かす等の機能性のある植物の開発） ・自分が使った・減らせた CO₂ の見える化が進化するとよい。

7. 今後の会議の進め方の提案

「あつぎ脱炭素市民アクションプラン」の作成に向けた第3回以降の市民会議の進め方について遠藤睦子事務局長から提案を行った。

まず、あつぎ気候市民会議では厚木市カーボンニュートラルロードマップ実現だけにとどまらず、カーボンフットプリントの削減・地球規模の脱炭素で温暖化を止めることを目指すという目標を掲げ、次に今後の市民会議では「厚木市地球温暖化対策実行計画」の施策の柱に基づいた4つのテーマを取り上げて検討を深めていくことを提案した。具体的には、テーマは（A-1）創エネ・エネルギーの地産地消、（A-2）移動・まちづくり、（B-1）住まい・省エネ、（B-2）消費・食・農・廃棄の4つとすることと、テーマに基づく講師や情報提供者の案を示した。

なお、当初は参加者との質疑応答や意見交換を予定していたが、この場では発言がなかったため、もし質問や意見等があれば第2回参加者アンケートに記入してもらうこととした。

8. 次回に向けての連絡

窪田とも子実行委員より次回のスケジュールや募集事項に関する説明を行ったほか、アンケートを実施した。

9. 閉会

以上